

中学校学習評価ガイドライン

～指導と評価の一体化を目指して～

令和7年12月

伊賀市教育委員会

目次

はじめに	1
I 学習評価の基本的な考え方について	2
(1) 学習評価の3つの役割	2
(2) 学習指導要領の趣旨を踏まえた評価の観点について	3
II 評価の観点について	4
(1) 「知識・技能」の評価について	4
(2) 「思考・判断・表現」の評価について	4
(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について	5
III 観点別学習状況の評価の進め方	7
1 年間の指導と評価の流れ	7
2 1学期間における各観点の評価場所の設定	8
3 学習評価の総括について	9
IV 成績評価基準検討の流れについて	15
V 関連資料	16

はじめに

今回、伊賀市教育委員会では、各学校が「指導と評価の一体化」を確実に進める際の参考となるよう、「中学校学習評価ガイドライン」を作成しました。現行の学習指導要領では、各教科等の目標及び内容が、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」という3つの柱に整理され、各教科等でどのような資質・能力の育成を目指すのかが明確に示されています。これにより、教師が「児童・生徒にどのような力が身に付いたのか」という学習の成果を的確に捉え、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図る、いわゆる「指導と評価の一体化」を実現することが求められてきました。

学習評価は、児童・生徒の学習改善につながるものとすること、教師の指導改善につながるものとすることという方向性のもとに行われるものです。評価は、児童・生徒にとって学習改善に資する情報であると同時に、教師にとっては、自分自身の指導について振り返り、次の授業改善につなげていく情報でもあることを再確認したいと思います。

また、授業改善を進める際には、単元などの内容や時間のまとめを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向け、主体的・対話的で深い学びの実現を図ることが重要です。なぜならば、主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではないからです。

本ガイドラインでは、改めて、学習評価の基本的な考え方と、各教科の具体的な例を示したものを記載しました。各校において、本ガイドラインを踏まえ、生徒にどのような資質・能力を育むのか、そのためにはどのような学びが必要なのか、また教育目標の到達度をどのように評価するのかについて、すべての教員が意見交換を行いながら、組織的に授業改善を進めていただきたいと考えています。本ガイドラインを活用し、「指導と評価の一体化」を推進するとともに、主体的・対話的で深い学びの実装を目指し、子どもたちが未来の創り手となるために必要な資質・能力を育んでいくことを期待しています。

I 学習評価の基本的な考え方について

(1) 学習評価の3つの役割

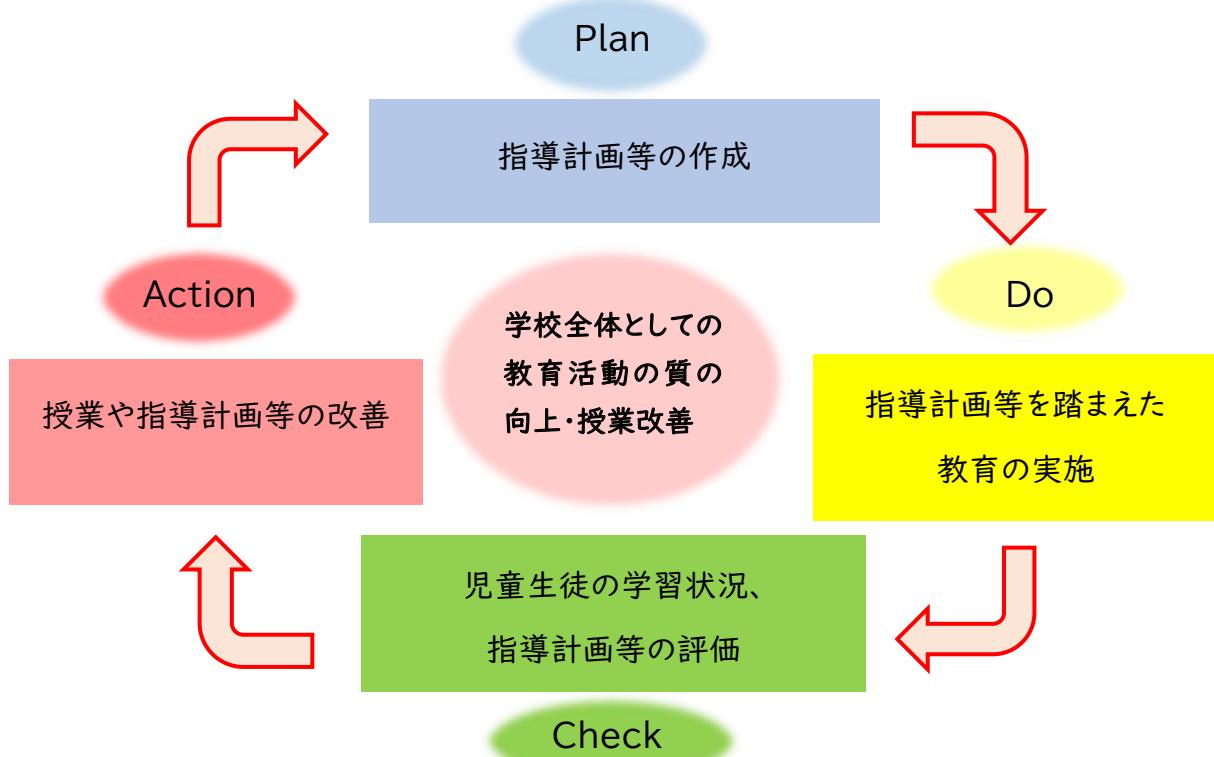
学習評価は、学校における教育活動に関し、児童・生徒の学習状況を評価するためのものです。

授業を行った際に、「児童・生徒にねらいとする力が身に付いたのか」を着実に把握することが学習評価です。指導したことを確実に評価し、評価したことを指導に活かすことが大切です。学習評価は大きく3つの役割があります。

- ①教育活動に関し、児童・生徒の学習状況を評価する。
- ②「児童・生徒にどのような力が身に付いたのか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図る。
- ③児童・生徒が自らの学習を振り返り、次の学習に向かうことができるようになる。

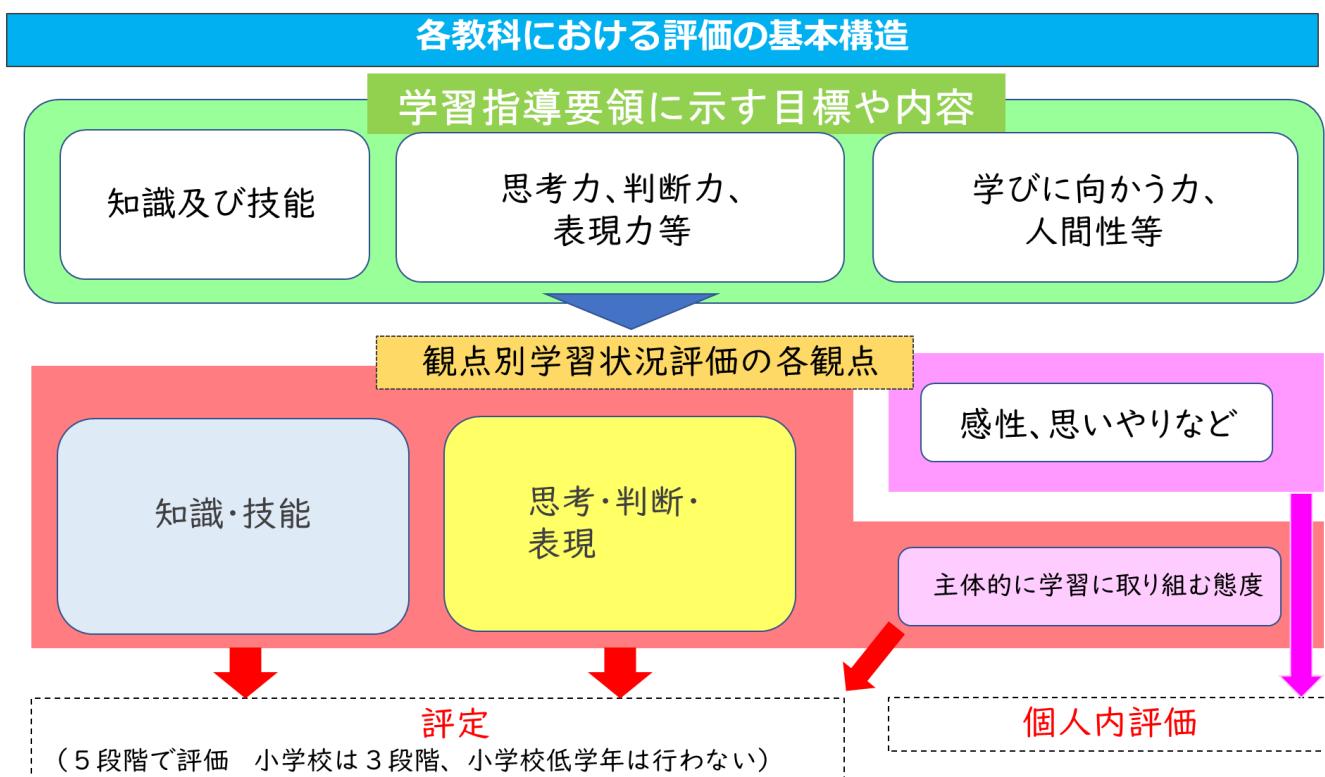
また、学習評価は、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割と、「主体的で深い学び」の視点からの授業改善を通して各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、重要な役割を担っています。

教師は、児童・生徒に身に付けさせたい力を明確にして指導を工夫します。そして、日々の授業において、児童生徒の学習状況を評価し、授業改善を図るとともに、児童・生徒が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようになりますが大切です。



(2) 学習指導要領の趣旨を踏まえた評価の観点について

現行の学習指導要領では、全ての教科等の目標及び内容が、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す資質・能力の3つの柱で整理されています。各教科における評価は、学習指導要領に示された各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するものです。特に、「学びに向かう力、人間性等」は、「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と、観点別学習状況の評価や評定にはなじまない、個人内評価を通じて見取ることができます。「感性や思いやり」など児童・生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などについては、積極的に評価し、児童・生徒に伝えることが重要です。



「学びに向かう力、人間性等」については

- ①「主体的に学習に取り組む態度」として、観点別評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ることができる部分と、
- ②観点別評価にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから、個人内評価を通じて見取る部分があります。

II 評価の観点について

(1) 「知識・技能」の評価について

【何を評価するのか】

- 個別の知識及び技能の習得状況について評価します。
- それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価します。

【どのように評価するのか】

- 事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮したペーパーテストの結果。
- 実際に知識や技能を用いる学習場面を設け、様子を見取る。
(児童・生徒に文章で説明させて、内容を見取る。観察・実験をさせたり、式やグラフで表現させ、内容を見取ったりする。など)

学習指導要領において、各教科で身に付けるべきとされている知識(例:○○の性質を理解している)や技能(○○の実験ができる)について、十分に習得しているのかが評価の対象となります。知識については、ペーパーテストで評価するが多くなると考えられますが、1問1答の形式で測ることができるような単純な知識だけではなく、他の知識とも結びつけて活用できるような概念的な知識も重視されます。そのため、ペーパーテストにおいても、その知識や技能が生きて働くものになっているかといった視点を大切にして、出題の形式を工夫します。

(2) 「思考・判断・表現」の評価について

【何を評価するのか】

- 各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力・判断力・表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

【どのように評価するのか】

- 論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動(パフォーマンス課題)の中で見取る。
- ポートフォリオ(日々の学習プロセスを記録し、まとめたもの)を作成させ、その内容を見取る。

「思考・判断・表現」の観点では、「知識・技能」と比べて、より広い力を評価することになります。各教科の学習の中で、児童生徒が既習の「知識や技能」を活用し、課題や問題を解決しようとを考えたり、学級の友達と対話をしながら、いくつかの方法から最適な方法を見つけ出したり、自らの考えを学級の友達に伝えたりしていく能力を評価します。つまり、単元後のペーパーテストだけでなく、単元の適切な段階において、教師の指導や子どもの学習に活かす評価を行うことが大切です。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

【何を評価するのか】

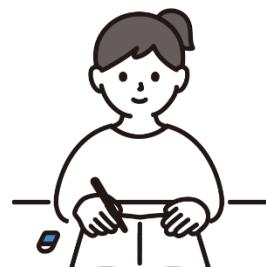
○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面（粘り強さ）とその中で自らの学習を調整しようとしているか（自己調整）という側面の二側面から評価します。

【どのように評価するのか】

- ノートやレポートなどに等における記述内容
- 授業中の発言内容
- 行動観察
- 児童生徒による自己評価や相互評価の様子や記述内容

【留意点】

これまでの「関心・意欲・態度」でも、挙手の回数、宿題の提出率などを観点別評価に入れることは不適切でした。このような児童・生徒のがんばりについてはしっかりと認め、ほめることは大切ですが、観点別評価には入れないということが原則です。「主体的に学習に取り組む態度」として評価するのは、原則授業の中での姿であり、学習内容（「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」）を身に付けようとする姿です。



「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、以下の3点を共通理解して進めましょう。

① 各教科の内容を身に付けるための授業内の姿を評価すること

⇒ノートの取り方、挙手の回数、提出物など、児童生徒の性格や形式的なもので判断しないことが大切です。

② 評価する姿は「自己調整」と「粘り強さ」の2つで見ること

⇒学習内容を身に付ける際に、一つの考えだけでなく、様々な考えを受け入れようとしているか、また、それらを比較しより良い考え方を見つけようと最後まで考え続けているかを見取ります。(見た目の意欲にとらわれない。)

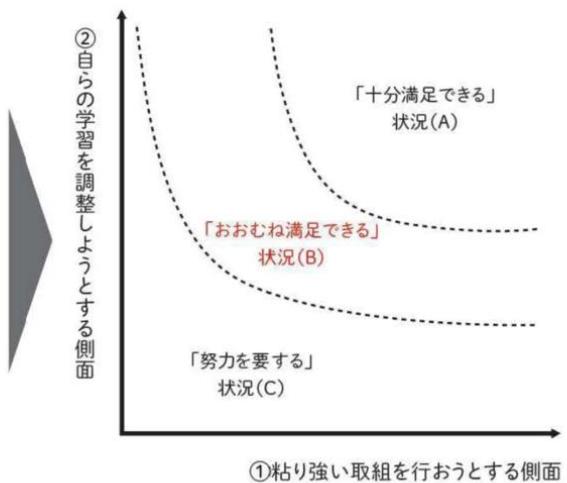
③ 問題解決的な授業づくりが求められること

⇒①②のポイントを考慮すると、教師主導型の授業ではなく、より問題解決的な授業づくりを行い、児童生徒の自主性や思考力が働く場面を設定することが求められます。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向かう粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとするとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



ここでの評価は、その学習の調整が「適切に行われるか」を必ずしも判断するものではなく、学習の調整が知識及び技能の習得などに結びついていない場合には、教師が学習の進め方を適切に指導することが求められます。

国立教育政策研究所（2019）「学習評価の在り方ハンドブック（高等学校編）」
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/gakushuhyouka_R010613-02.pdf

III 観点別学習状況の評価の進め方

I 年間の指導と評価の流れ

(1) 指導と評価の年間計画を設計

- ①各教科の学習到達目標を設定
- ②各教科の評価の観点及びその趣旨を設定
- ③単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、目標及び評価規準を設定
- ④単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習内容及び評価方法を設定



(2) シラバス(指導と評価の年間計画)として可視化



(3) シラバスに基づく授業の展開

- ・生徒の学習状況を把握しながら、適宜学習内容等を修正する



(4) 学習状況の評価

- ・生徒一人ひとりの、教科の目標に対する実現状況を観点ごとに評価
- ・観点ごとの評価結果を蓄積し、観点別学習状況の評価や評定に総括
- ・成績評価表の作成、提示



(5) 評価結果の分析、学習の改善及び指導の改善

- ・評価結果をもとに各教科の目標に対する実現状況を分析
- ・評価結果を生徒の学習の改善や教員の指導改善に生かす

※(5)の結果分析を、(1)～(4)の活動へフィードバックしながら、生徒の資質・能力を育成していきます。



2 | 学期間における各観点の評価場所の設定

※1学期間において、生徒の学習状況を観点ごとに評価する場面を計画した参考例

単元	評価の観点と評価方法		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元1	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-between;"> ↓ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小テスト</div> ↓ </div>	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-between;"> ↓ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">パフォーマンステスト</div> ↓ </div>	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-between;"> ↓ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ノート・振り返りシート</div> ↓ </div>
単元2			<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-between;"> ↓ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ノート・振り返りシート</div> ↓ </div>
	中間テスト		
単元3	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-between;"> ↓ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小テスト</div> ↓ </div>	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-between;"> ↓ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">パフォーマンステスト</div> ↓ </div>	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-between;"> ↓ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ノート・振り返りシート</div> ↓ </div>
単元4			<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-between;"> ↓ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">レポート</div> ↓ </div>
	期末テスト		<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-between;"> ↓ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ノート・振り返りシート</div> ↓ </div>



評価の記録について、毎時間、児童生徒全員の記録をとることは現実的ではありません。記録を残す場面を精選するようにします。また、1回の授業で、3つの観点を評価するわけではありません。内容のまとめの評価規準に沿って、各観点ができる段階で評価します。

3 学習評価の総括について

評価に係る記録の総括としては、単元末、学期末、学年末等の節目となります。記録が複数ある場合は、以下のような方法が考えられます。

◆評価結果の ABC の数をもとに総括する場合

評価結果の ABC の数が多いものが、その観点の学習の状況をもっともよく表しているとする考え方立つ総括の方法です。

(例1)

	小テスト	振り返りシート	パフォーマンステスト①	ワークシート	パフォーマンステスト②	期末テスト	振り返りシート	学期末観点
知・技	B			B		B		B
思・判・表			B		A	C		B
主体的		A	A		B		B	B

※「思考・判断・表現」…評価結果「BAC」→学期末観点「B」、「主体的に学習に取り組む態度」…評価結果「AABB」→学期末観点「B」等、評価結果が同数の場合の総括についてはあらかじめ決めておく必要があります。

(例2;特定の取組を重視して評価する場合)

※パフォーマンステスト①と期末テストを重視した場合

	小テスト	振り返りシート	パフォーマンステスト①	ワークシート	パフォーマンステスト②	期末テスト	振り返りシート	学期末観点
知・技	B			B		BB		B
思・判・表			BB		A	CC		B
主体的		A	AA		B		B	A

◆評価結果のABCを数値に置き換えて総括する場合

例えば A=3,B=2,C=1 のように数値に置き換えて、合計したり平均したりする総括の方法です。
この際、平均値の範囲を設定しておき、判断基準を決めておくことが必要です。

(例3)

※ A:平均値 ≥ 2.5 B:平均値 ≥ 1.5 C:平均値 < 1.5

	項目①	項目②	項目③	項目④	項目⑤	項目⑥	項目⑦	平均値	学期末 観点
知・技	C(1)			C(1)		B(2)		1.7	B
思・判・表			B(2)		A(3)	C(1)		2.0	B
主体的		A(3)	A(3)		B(2)		B(2)	2.5	A

(例4;特定の取組を重視して評価する場合)

※項目③と項目⑥を重視した場合

	項目①	項目②	項目③	項目④	項目⑤	項目⑥	項目⑦	平均値	学期末 観点
知・技	C(1)			C(1)		BB (4)		2.0	B
思・判・表			BB (4)		A(3)	CC (2)		1.8	B
主体的		A(3)	AA (6)		B(2)		B(2)	2.6	A

各評価項目において、何をもってABCを判断するのか、評価規準を設定しておきます。

◆各観点の達成状況を100点法で示し、それを基に観点別学習状況の評価及び評定へ総括する方法→教科部会において、成績評価基準等を作成します。各学校では、それに基づいてシラバスを作成し、成績評価表へ記入します。

【シラバス作成例①:数学科】※緑色の○部分を教科部会において決定します

数学科シラバス(3年生)

○ 教科を学ぶ意義・目的

- ・ 数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。

○ 学習について

<授業>

- ・ ノートをとるときは、あとで見直したときに、何を学習したのかがわかるように整理して丁寧に書く。また、大事だと感じたところは線を引くなど工夫する。
- ・ 途中の式や計算した過程をしっかり描くことを大切にする。
- ・ わからないときは班の仲間や先生に質問をして解決するようにする。
- ・ ミスの原因や解決のポイントを赤ペンなどで書き加え、再度学習したときに生かせるようにする。

<家庭学習>

- ・ 授業で学習した内容をその日のうちに復習する。
- ・ ワークブックで計算練習や問題演習をして学習したことを身につけるようにする。
- ・ 提出物の期限を守ろうという意識をもち、宿題等はその日のうちに終わらせるようにする。

○ 使用教材

【教科書】「〇〇〇〇」(出版社名)

【副教材】「〇〇〇」(出版社)、「△△△△」(出版社)

【持ち物】教科書、ノート、副教材、ファイル、タブレット

○ 評価基準・評価方法

学習計画			評価にあたって		
	月	単元計画		評価の観点	評価の方法 割合
1 学 期	4	◆式の計算 ・多項式の計算 ・因数分解 ・式の計算の利用 ◆平方根 ・平方根 ・根号をふくむ式の計算 ・身のまわりにある平方根	<p>知識</p> <p>技能</p> <p>思考</p> <p>判断</p> <p>表現</p> <p>主体的 組む</p> <p>学習度 に取</p>	・解を求めることができる。 ・問題を解決する手順を理解している。 ・表やグラフの特徴について説明することができる。 ・用語や記号について説明することができる。 ・图形の性質について説明することができる。 ・問題を解決していく中で、学習した内容を用いて問題を解決することができる。 ・表やグラフを書くことができる。 ・表やグラフから値などを読み取ることができる。 ・証明することができる。 ・学習内容に対して考察し、問題解決に活用することができる。	定期テスト 小テスト レポート 70% 10% 20%
	5	◆2次方程式 ・2次方程式 ・2次方程式の利用			
	6				
	7				
	9	◆関数 $y=ax^2$ ・関数 $y=ax^3$ ・関数の利用 ◆相似 ・相似な图形 ・平行線と線分の比 ・相似の利用 ◆円 ・円		・解に到達するまでの考え方わかる。 ・問題を解決していく中で、学習した内容を活用することができる。 ・既知の学習内容との類似点や相違点に着目することができる。 ・既知の学習内容と比較・関連させて考察することができる。	定期テスト 小テスト レポート 発言の内容 70% 10% 10% 10%
	10	◆三平方の定理 ・三平方の定理			
	11				
	12				
3 学 期	1	・三平方の定理の利用 ◆標本調査 ・母集団と標本 <3年間の復習>		・事象の中には、機知の学習内容とは異なる関係・性質・式があることに関心をもつ。 ・既知の学習内容と新たに学習している内容との特徴の違いについて、興味を持って調べようとする。 ・(発展的な)問題解決のために、学習してきたことをすくんで利用しようとする。 ・到達できていないところを自らが把握し、克服しようとする。	発言の内容 振り返りシート レポート 20% 40% 40%
	2				
	3				

※知識・技能……80%以上であればA、30%未満であればC

思考・判断・表現…70%以上であればA、30%未満であればC

主として学習に取り組む態度…80%程度に達していればA、40%程度を満たしていないければC

【成績評価表記入例①:数学科】

シラバスに示した評価の割合と、その評価理由を簡潔に記録します

生徒名	○○ ○○	成績評価表（数学）			
	割合	評価項目	評価理由	得点	
知識・技能	0.70	定期テスト	中間テスト25点、期末テスト30点	27.5	
	0.10	小テスト	単元ごとのテスト8回の平均点	28	
	0.20	ノート・レポート	毎時間の振り返り30点、表・グラフの作図30点	30	
	0.00	知技項目④	0	0	
	0.00	知技項目⑤	0	0	
評価		$27.5 \times 0.70 + 28 \times 0.10 + 30 \times 0.20 + 0 \times 0.00 + 0 \times 0.00 =$	28.05		
思考・判断・表現	0.70	定期テスト	中間テスト30点、期末テスト45点	37.5	
	0.10	小テスト	単元ごとのテスト8回の平均点	40	
	0.10	レポート	既知の学習内容と比較・関連させて考察している	30	
	0.10	授業での発言内容	既知の学習内容と関連付けて考察し、自分の考えを表現している	30	
	0.00	思判表項目⑤	0	0	
評価		$37.5 \times 0.70 + 40 \times 0.10 + 30 \times 0.10 + 30 \times 0.10 + 0 \times 0.00 =$	36.25		
主体的に学習に取り組む態度	0.20	授業での発言内容	学習内容の必要性と意味を考えようとしている	35	
	0.40	ノート、レポートの記述内容	毎時間の振り返りシートにおいて、問題解決の課程を振り返り改善しようとしている	40	
	0.40	レポート	単元ごとの振り返りにおいて、自己調整につながる記述が見られる	45	
	0.00	主体項目④	0	0	
	0.00	主体項目⑤	0	0	
評価		$35 \times 0.20 + 40 \times 0.40 + 45 \times 0.40 + 0 \times 0.00 + 0 \times 0.00 =$	41		
(判断基準) 知識・技能・・・・・・・80%以上であればA、30%未満であればC 思考・判断・表現・・・・・・・70%以上であればA、30%未満であればC 主体的に学習に取り組む態度・・80%程度に達していればA、40%程度を満たしていないければC					
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評定
		C	B	B	3

【シラバス作成例②:技術】

学習目標	技術の見方・考え方を働きかせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を養う。		
育てたい力 (評価規準)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や社会で利用されている材料と加工の技術についての基礎的な理解とそれらに係る技能 ・材料と加工の技術と生活や社会、環境とのかかわりについての理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や社会の中から材料と加工の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に材料と加工の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度
評価の方法	定期テスト スキルテスト プリントの記述 実技・実習	定期テスト プリントの記述 実技・実習	プリントの記述 実技・実習 振り返りシート
	各観点 80%以上→A、20%以上 80%未満→B、20%未満→C		
使用教材	教科書 副教材	○○○「△△△△（技術分野）」 授業プリント	
準備物	教科書、ファイル ※作業がある場合は体操服		
使用教材	板材 (12mm×210mm×1200mm) ※予定		

年間学習計画

学期	月	学習内容	学習のポイント
1 学 期	4	①ガイダンス 【材料と加工の技術】 ②生活や社会と材料と加工の技術 ③さまざまな材料と加工の技術 ④木材の材料と加工の技術 ⑤構造をじょうぶにするための技術 ⑥製図〔等角図・三角法〕 (期末テスト) 作品実習（マルチラックの製作） ⑦マルチラックの構想図を三角法でかく。	②～⑤、⑯ 教科書を参考にしながら板書を進めています。プリントはただ板書を写すだけではなく、説明等で大切なことを書き込みましょう。 授業の中で問題を解きながら学習を進めます学習し終わったプリントをなくさないために、必ずファイルに綴じるようにしましょう。
	5		
	6		
	7		
	9	⑧板へのけがき〔さしがねの使い方〕 ⑨のこぎりびき〔両刃のこぎりの使い方〕 ⑩部品加工〔かんな・のこやすりの使い方〕 ⑪接合部のけがき・下穴あけ 〔卓上ボール盤・電動ドライバーの使い方〕 (期末テスト) ⑫組み立て〔げんのうの使い方〕	授業の中で配ったプリントを課題として提出してもらうこともあります。評価をして返却します。 ⑥～⑦ 製図では、作品の構想を紙面に表すための方法を学びます。 ⑧～⑭
	10		
	11		
	12		
2 学 期	1	⑯面取り・素地磨き ⑭ニス塗り〔塗装のしかた〕 (学年末テスト)	技術室で作業を伴う授業をするときは、必ず体操服に着替えます。実習では、授業の最初に本時の作業内容の確認、最後に作業のまとめと作業で気づいたことの交流をします。特に、作業の途中で気づいたこと、工夫したことがあればノートにメモする習慣を身につけましょう。 ※スキルテストを行うこともあります。
3 学 期	2		
	3	⑮森林の役割と間伐の学習	

【成績評価表記入例②:技術科】

生徒名	○○ ○○	成績評価表（技術）		
	割合	評価項目	評価理由	得点
知識・技能	0.40	定期テスト	期末テスト	85
	0.10	スキルテスト	基礎的な技術の仕組みを理解している	80
	0.20	プリントの記述	主要な材料や加工の特性などの理解	70
	0.30	実技・実習	組み立て、仕上げ、検査等ができる90点、制作に必要な図を書き表す80点	85
	0.00	知技項目⑤	0	0
評価	$85 \times 0.40 + 80 \times 0.10 + 70 \times 0.20 + 85 \times 0.30 + 0 \times 0.00 =$			
思考・判断・表現	0.40	定期テスト（記述）	期末テスト	65
	0.20	プリントの記述	設計、計画に照らして制作の過程を評価、改善している	70
	0.40	実技・実習	条件を踏まえて適切な材料や加工方法を選択し、構想を具現化している	70
	0.00	思判断項目④	0	0
	0.00	思判断項目⑤	0	0
評価	$65 \times 0.40 + 70 \times 0.20 + 70 \times 0.40 + 0 \times 0.00 + 0 \times 0.00 =$			
主体的に学習に取り組む態度	0.30	実技・実習	進んで材料と加工の技術に関わり、主体的に技能を身に付けようとしている	60
	0.30	ノート、レポートの記述内容	制作過程を振り返り、粘り強く改善、修正しようとしている	60
	0.40	振り返りシート	単元ごとの振り返りにおいて、自己調整につながる記述が書かれている	70
	0.00	主体項目④	0	0
	0.00	主体項目⑤	0	0
評価	$60 \times 0.30 + 60 \times 0.30 + 70 \times 0.40 + 0 \times 0.00 + 0 \times 0.00 =$			
(判断基準) 80点以上「A」、20点以上80点未満「B」、20点未満「C」				
		知識技能	思考判断表現	主体的に学習に向かう態度
		A	B	B
				3

IV 成績評価基準検討の流れについて

成績評価基準の検討は各学校、教科部会、教育委員会、の三者で行います。(図1)

まず、教育委員会は、教科部会で検討する際の参考となるための例(シラバス、成績評価表)を示します。

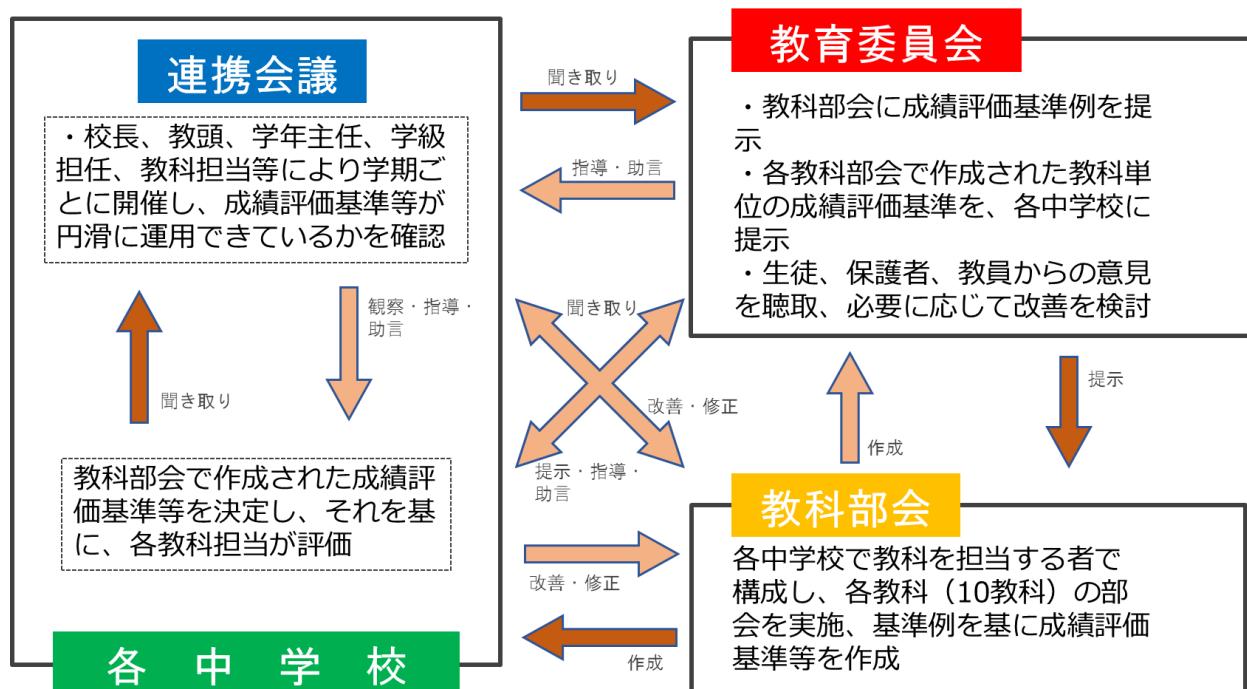
その例を参考に、教科部会において、実際に各学校で指導を行っている教員で一定の統一した評価基準を作成します。

各学校では教科部会で作成された評価基準等を決定し、それを基に各教科担当が評価することになります。同時に、校長、教頭、学年主任、学級担任、教科担任等による「連携会議」を学期ごとに開催し、運用していく中で成績評価基準が適切であるかどうか、円滑に運用できているかどうかを確認します。

今後は、必要に応じて教育委員会は各学校から連携会議において出た意見等について聞き取りを行い、指導・助言を行い、年に1回以上教科部会を開催します。

学校、教科部会、教育委員会がそれぞれの立場から、評価基準を見直すことで、より妥当性・信頼性の高い評価を実施することが可能になると考えます。

【図1】



▽ 関連資料

- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(小学校・中学校)令和2年3月
国立教育政策研究所 教育課程研究センター

※国立教育政策研究所の参考資料のページには、各教科の参考資料が
PDFで掲載されています。



- ・学習評価の在り方ハンドブック 小・中学校編
国立教育政策研究所 教育課程研究センター

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>

